



道しるへ

令和7・10・12
No.69

「この道の向こうには、夢がある」

75周年記念号

ごあいさつ

結成75周年を迎えて

社会福祉法人 京都府母子寡婦福祉連合会
会長 常塚 朋子



昭和25年に「わが幸はわが手で」をモットーに京都府未亡人会が結成され、今年で75周年を迎えます。母子家庭、寡婦のためと

先輩諸姉が言葉に尽くせぬ苦難を乗り越えつつ活動をしてこられた努力の上に今日の私達があることを胸に刻み、今後の活動をその先の未来へとつなげていかなければなりません。

現在、景気は回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス等の感染症による影響や円安、石油や小麦など原材料費の上昇による物価高騰が長引き、私たちの生活は依然として厳しい状態が続いております。

このような中、京都府におかれましては、困窮するひとり親家庭等を支援するために、いち早く、食料品・生活必需品等配布事業を立ち上げてくださり、各家庭のニーズに合わせた食料品・生活必需品・学用品を配布するなどきめ細やかな支援を続けていただいております。併せて、多くの皆様からも食料品や学用品、ランドセル等の寄贈、イベントへの招待や事業への助成など多岐にわたる御支援をいただいておりますこと、会員はじめ、多くのひとり親世帯から感謝の声が寄せられており、改めてこの場をお借りし、皆さまに感謝を申し上げます。

また、急速な少子・高齢化のうねりの中にあって、子どもの貧困の解消のための育成、支援が社会全体の大きな課題となっていますが、京都府では、「きょうとこどもの城づくり事業」として、平成25年からこどもの居場所づくり事業を実施される中、当連合会においても14箇所の居場所を運営し、地域とともに、親と子が育ちあう居場所となるよう懸命に取り組んでおります。

他にも京都府より委託いただいたひとり親家庭自立支援センターでは、くらしに必要な情報提供や紹介から就労相談までをワンストップで支援し、母親の自立に向け頑張っておりますし、さらに、令和4年には、ヤングケアラー総合支援センターの立ち上げを、京都府より委託していただきました。引き続き、ご期待に添えますよう、しっかり頑張りたいと存じます。

この度75周年を契機とし、さらに会員一人おひとりとしっかり手を携え、ひとり親世帯が、一層の幸せを実感できる京都府母子寡婦福祉連合会を作りあげていきたいと思っております。

結びにあたり、西脇京都府知事様をはじめ関係の皆様にお礼申し上げますとともに、引き続きのご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

- ごあいさつ..... P1
- お祝いのことば..... P2
- 知事表彰及び会長感謝状贈呈者名簿..... P3
- 連合会 75 年のあゆみ（概要版）..... P4
- こどもの居場所づくり事業..... P5
- 母子部地域別交流会・ブロック別懇話会..... P6
- 京都府の子どもの貧困対策の推進について..... P7
- 知っとコーナー、いきいきふれあい事業、あとがき..... P8

連合会 75 年のあゆみ (概要版)

昭和24年	全国未亡人会発足・綴喜郡一路会結成 (府下初の未亡人会)
昭和25年	京都府未亡人会結成 (会長 橋 正寿・会員21,607人)
昭和28年	母子福祉資金貸付制度が発足
昭和34年	母子福祉団体小口貸付制度が発足
昭和35年	結成10周年記念京都府母子福祉大会開催
昭和36年	児童扶養手当法制定
昭和37年	母子家庭新入学児童を祝い励ます会を実施 (以後毎年実施)
昭和39年	母子福祉法制定
昭和40年	母子及び寡婦福祉短期・生活資金貸付制度が発足
昭和42年	母子福祉指導者研修会を開始
昭和44年	寡婦福祉資金貸付制度が発足
昭和46年	結成20周年京都府母子福祉大会を開催
昭和48年	会の名称を「京都府母子福祉連合会」に変更
昭和49年	母子家庭奨学金等支給制度が発足
昭和50年	母子家庭児童福祉医療助成事業を開始 寡婦等雇用奨励金支給制度が発足
昭和55年	結成30周年記念京都府母子寡婦福祉大会を開催
昭和56年	母子及び寡婦福祉法制定
昭和61年	会の名称を「京都府母子寡婦福祉連合会」に変更 母子福祉推進員制度が発足 (母子福祉協働員と母子福祉資金償還協力員を一体化) 結成35周年記念京都府母子寡婦福祉大会を開催
平成 2 年	結成40周年記念京都府母子寡婦福祉大会を開催
平成 3 年	社会福祉法人・京都府母子寡婦福祉連合会設立発起人会
平成 4 年	社会福祉法人設立認可 (京都府知事) 「母子家庭いきいきふれあい事業」の創設
平成 5 年	機関紙「道しるべ」発刊
平成 7 年	結成45周年記念京都府母子寡婦福祉大会を開催
平成12年	結成50周年記念京都府母子寡婦福祉大会開催 (京都子ども文化会館)
平成15年	「日常生活支援事業」(介護人派遣事業) 支援員の資格取得講習開始 母子家庭等自立支援センター開設 (府社協)
平成16年	ホームヘルパー3級講習会 (南部、北部) 母子部設立 愛称「ひまわり」に決定
平成17年	結成55周年記念京都府母子寡婦福祉大会開催 (於 京都テルサ)
平成18年	北部自立支援センターを福知山市に開設 (府母子連 受託)
平成19年	南部自立支援センターを京都テルサ内に開設 (府母子連 受託)
平成20年	全国母子寡婦福祉研修大会 (於ウエスティン都ホテル)
平成22年	結成60周年記念京都府母子寡婦福祉大会・全体研修会 (於 京都テルサ)
平成25年	こどもの居場所づくり事業を開始
平成27年	結成65周年記念京都府母子寡婦福祉大会・全体研修会 (於 京都テルサ)
平成29年	ブロック別懇話会 (南部、中部、北部) 開始
令和 2 年	結成70周年記念京都府母子寡婦福祉大会・全体研修会 (コロナ感染拡大防止の為、中止)
令和 4 年	ヤングケアラー総合支援センターを京都テルサ内に開設 (府母子連 受託)

こどもの居場所づくり事業

きょうとこどもの城特別体験活動支援事業

子ども達に楽しい体験を

京丹波町母子寡婦福祉会 谷山 和子

物価高騰の影響などにより、催しなどの機会が減少している子ども達が居場所を通じていろいろな体験ができるようにと京都府が支援してくださり、京丹波町の居場所では町内の道の駅「和 (なごみ)」でバーベキュー交流会を行いました。親子揃って賑やかに、鮎つかみ体験もしていますので、子どもに大人気です。今年は父子家庭の参加もあり、幼児から中学生までの12名の子どもを含め、全員で33名でした。

バーベキュー会場横にある小さな小川には鮎がいっぱい放されて泳いでおり、子ども達はずっと最初から水の中へ入って端から端まで追いかけて楽しそうでした。その様子を見て、お母さん達はバーベキューを楽しんでいました。ある子どもさんは鮎つかみに必死で、食事せず、バケツいっぱいつかんでいました。その鮎を焼いてもらって、みんなで食べて、とてもおいしかったです。

鮎が苦手な子も捕ることは楽しいと言っていて、昨年は水の中に入ることができなかった子どもさんが、今年はつかめたとお母さんがうれしそうに話してくださいました。なかなかこのような体験ができないので、きっと心に残ることでしょう。スタッフとして参加した寡婦の方も微笑ましい状況だと喜んでおられました。皆さまの協力もあって無事故でできたこと、本当に良かったです。



居場所の先生の声

居場所に関わって変わったこと

向日市三つ和母子会の居場所 長谷川 虎旺

居場所の子ども達に会って変わったこと、それは自分の感受性が非常に豊かになったことにある。

居場所の活動を始めた時、私は子ども達との接し方が本当にわからなかった。なぜなら、自分よりもはるかに年が下の子と接するという経験をしたことがなかったからだ。初めは戸惑いの連続だった。しかし、回数を重ねるごとに相手の気持ちに立つということが非常に大切だということに気がついた。彼らは些細なことでも喜び、感動、悲しみの感情を感じる。そう気づいた時には私も彼らのように些細なことで様々な感情が芽生えるようになった。それは自分の日々の生活をさらに充実したものにするにつなげたといえる。

居場所という場所に出会って変わったこと、それは自分の見ている世界が広がったことにある。

そう感じたのは、居場所を通して母子家庭の親御さんたちの大変さを実感したからである。私は、居場所以外にも家庭教師として、居場所に所属するご家庭の家に訪問し、親御さんが帰ってくるまでの時間、子どもの面倒を見るという活動を毎週木曜日に行っている。その際、親御さんが帰ってくる光景を必ず眼にするのだが、親御さんは必ずといっていいほど疲れた顔をして帰ってくる。にもかかわらず帰ってきてすぐに子どものために夕食の支度を始める姿を見て、僕にもっと何かできることはないのかという無力さを感じる。想像をしてみたい。疲れ切って帰ってきた日、家の家事や子どもの面倒を見る大変さを、そのような思いをしているご家庭が居場所には集まっている。そう考えると、ほんのひとときでもいいので子どもの面倒をみることや家事をすることから解放され、安らぎの時間を過ごして欲しいと考えるようになった。

これからも先も子どもの居場所や子ども食堂の子ども達と楽しい時間を過ごし、充実した毎日を送りたい。そして、これからもこの活動を経て、自分の見ている世界を広げたいと考えている。



「生きる力としての学力」を居場所で

舞鶴市母子福祉会の居場所 有本 道子

「夏休みの子どもの学習を見てくれないか」と紹介をいただき、その後12年にわたり小中学生・高校生との「学びのくらし」を共に過ごしてきました。

舞鶴の居場所では、安心、ゆっくり、楽しく、優しく、自由に、信頼し合いながら…などの空気作りの中で「学習」を中心に運営してきました。学習といっても、計算する、漢字を覚える…等の利他的な学習だけに留まらず、学びの基盤づくり→生きる力としての学力の追求→夢をもち未来を考える→その実現に向かって努力する、という道筋のある時間です。

そういう「学びのくらし」の中で、居場所に来たA君がかんしゃくを起こして、持ってきた宿題のプリントを破ってしまった時、部屋の中にいてくださった他の子どものお母さんが「明日、学校へ持って行かんなんやろ?」と優しく声をかけながら、プリントをセロテープでつないで元のように戻して下さったことがありました。A君は「愛のシャワー」を浴びたのでしょうか。そんな中でA君はどんどん変わっていったのです。よく話しかけてくれるようになり、計算も早くなり、書く文字もとてもきれいになってきました。器用さを発揮してくれる場面も多々あります。市の陸上大会で銅メダルをもらってきた時は、うれしそうに首にかけて見せてくれて、私は思わず写真立を作り、プレゼントしたことでした。A君は今、落ち着いて学習に取り組んでいます。

居場所は「楽しいだけの居場所」ではなく、「将来、自分が自分の力を精いっぱい発揮して生きることが出来る」、今はその力をつけるべく学び蓄える場になれば何よりうれしいと思っています。未来に一人ひとりの子どもが生き生きと楽しく生きてくれることが私の願いです。



母子部地域別交流会

支会の枠を超えて、北部・中部・南部の地域毎に、母子会員が調理実習や工作、懇話会等を通して交流する機会を作り、会員相互の連絡や協力を密にすることを目的に活動しています。

北部

令和6年9月29日◎ 参加者20人
京丹後市母子寡婦福祉会 田畑 三代
消しゴムハンコづくりをしました。まず薄紙に図案を写し、それを消しゴムに写してカッターナイフで削っていきます。スマホから好きなキャラクターを探して作っておられる方もありました。消しゴムが固くて子ども達は悪戦苦闘、お母さんに手伝ってもらいながら、何とかハンコを仕上げていました。
先生が用意された消しゴムハンコも借りて無地のトートバッグに押し、素敵なオリジナルカバンが出来上がりました。
「興味はあるけど機会がなくて」という方もおられました。楽しんでいただけたようです。



中部

令和6年11月10日◎ 参加者34人
亀岡市母子寡婦福祉会 廣瀬 和美
「今までにない取組みを」と考えて、亀岡市交流会館にある「カメロックス」でスポーツクライミングに挑戦しました。大小様々な人工のホールド（足がかり、手がかり）のついた壁を登る競技で、どこに手を、どこに足をとを考えながら壁を登っていきます。親子で体を動かして、楽しくふれあう良い時間となりました。
体験の後は会員同士の交流の時間を持ちました。地域間で支援の差があるという声もありましたが、一人ひとりが生き抜く力を身につけることも必要なのではないかという声もありました。



南部

令和6年6月9日◎ 参加者52人
向日市三つ和母子会 大橋 智美
お母さんたちは、ファイナンシャルプランナーの先生による講習会でひとり親の皆さんが抱えている生活費や学費のことなどを学びました。講師の先生と個別に相談できる時間を設けたらもっとよかったです。
お母さん達が学んでいる間に子ども達は、お母さんたちのために炊き込みご飯、野菜スープなどを料理してくれました。
講習会を終えたお母さんたちと一緒に、お話をしながら食べて楽しい時間を過ごしました。子ども達の作ってくれた料理の味は格別だったと思います。



ブロック別懇話会

平成29年より始まり、北・中部・南部の地域毎に支会役員や母子連絡員の皆さんが集い、それぞれの地域特性に応じた活動や取組みについての情報交換や勉強会、地域の関係団体との連携強化の取組み等を行っています。

北部

令和6年9月29日◎ 参加者20人
京丹後市母子寡婦福祉会 梅田 豊子
京丹後市市民課男女共同参画担当の方にデートDV防止講座をしていただきました。事例や原因などの説明を聞くと同時に、対等な関係を作るための程よい距離を置くことが必要など、よりよい人間関係について考える機会となりました。
講演の後の意見交換では、食料品等の配布では物価高でもあり特に米が喜ばれたこと、いきいきふれあい事業の様子、支会の現状や事業内容などを聞くことができました。
次の役員となる方の人材育成をしていかなければ母子会そのものの維持も難しいのですが、会員の減少や後継者不足であることは課題です。



中部

令和6年7月13日◎ 参加者27人
京丹波町母子寡婦福祉会 谷山 和子
京丹波町在住でテレビでも紹介された紙芝居師の小川よしりのりさんに「よっちゃんの紙芝居」を講演していただきました。小川さんは難病を抱えておられます。紙芝居だけでなく、障がい者になってからの経験、作品との出会いなど、生きていく力や社会参加ができる喜びについてのお話も聞かせていただきました。
紙芝居の後、地域での活動や事業についての情報交換や個人の体験、感想などで交流しました。
「感動した」「勇気もらった」「立場は違っても頑張っていこうと思った」などの感想をいただきました。



南部

令和6年11月24日◎ 参加者16人
綴喜連合母子会 眞鍋 幸子
八幡市福祉会館で、普段の疲れを軽い体操でほぐし、支会の活動でも参考になるようなリラクゼーション法などを指導していただきました。
体操でほぐした後、支会での活動の様子などを話題に交流しました。こどもの居場所づくり事業の話が中心で、運営方法やフードバンクの活用状況、支会によって活動内容が違ふことなど、短い時間ではありましたが活発な話し合いをすることができました。体操では講師の先生にいろいろ質問もできまして、後半の交流では「参考になった」「聞いてよかった」と感想をいただきました。



社会福祉事業・ボランティア功労者知事表彰で
子どもの居場所が表彰受賞

令和7年9月4日(木) 京都テルサで行われた第74回京都府社会福祉大会にて、こどもの居場所事業に取り組んでいる相楽連合むつみ会が社会福祉事業貢献者として知事表彰を受けました。
これからも健やかな子ども達の育ちを願って、居場所づくり事業に取り組んでいきましょう。



京都府知事から直接手渡されました

18歳未満の子どもの11.5%、実に9人に1人は相対的貧困状態にあります。京都府では「京都府子どもの貧困対策推進計画」を策定し、全ての子どもが生まれ育つ環境に左右されることなく、将来に夢や希望を持って成長していける社会の実現に向け、関係機関が協働し、総合的・効果的に施策を推進していきます。

現状等

○生活保護世帯・ひとり親家庭は平成27年からの5年間で微減



○家庭の経済状況が学力に影響。生活習慣の確立と学習習慣の定着を図るきめ細やかな支援が必要

〔令和5年度学力テストの平均正答数〕 (単位：問)

	小学校6年生		中学校3年生	
	国語	算数	国語	数学
要保護家庭の子ども	7.1	6.2	7.5	5.6
準要保護家庭の子ども	8.1	8.6	9.3	6.6
府全体	9.6	10.2	10.6	7.7
【問題数】	14	16	15	15

当面の重点施策

向こう5年間の重点施策を次の5本柱で総合的に推進していきます。

- 1 連携推進体制の構築**
 - 地域における教育と福祉の連携体制の強化
 - 学校を起点に支援に結びつく仕組みの整備
 - 関係機関・団体の連携推進
 - きょうとこどもの城づくり事業の推進 など
- 2 ライフステージを通した子どもへの支援**
 - 適切な支援につなげるための体制整備
 - まなび・生活アドバイザーの配置を推進
 - 子どもの貧困に対する理解促進
 - 子どもの貧困問題と、その背景にある課題への理解促進
 - 個別の課題に対する支援
 - 虐待防止への支援
 - 社会的養護を必要とする子ども・若者への支援
 - ヤングケアラーへの支援
 - ひきこもりの子ども・若者への支援
 - 多様な困難を抱える子ども・若者への支援 など
- 3 ライフステージ別の子どもへの支援**
 - 就学前
 - 助産師等による専門的支援や子育て支援事業従事者への研修の実施
 - 保育所・認定こども園・幼稚園と小学校・放課後児童クラブ等との連携強化
 - 小・中学生
 - 小学校入学時からの一人ひとりの状況に応じた支援
 - ひとり親家庭等の子どもへの体験活動の機会の充実
 - NPO・自治会等と連携した学習環境づくりの推進
 - 高校生期以降
 - 学習等に課題を抱える高校生への基礎学力補習等の実施
 - 個々の状況に応じたキャリア教育の推進 など
- 4 子育て当事者への支援**
 - ひとり親家庭等への就業支援
 - ひとり親家庭の親や子に対する資格取得支援
 - 子育てや就・修学等に係る経済的支援
 - 高等教育無償化制度や給付型奨学金制度の活用
 - 生活基盤の安定のための支援
 - ひとり親家庭への給付や貸付の充実
 - 社会的孤立を防ぐ取組の推進
 - ひとり親家庭等の精神的負担軽減のための相談支援 など
- 5 子どもへの貧困の実態を踏まえた対策の推進**
 - 調査研究の実施
 - 今後の施策反映のための子どもの貧困の実態調査

夢を応援基金 ひとり親家庭支援奨学金制度は、ローソンググループと全国母子寡婦福祉団体協議会が力を合わせ、ひとり親家庭の生徒さんを応援する給付型奨学金です。

夢の実現に向けて頑張っている奨学生の方に近況をうかがいました。

秋山 隆太郎

奨学生として採用していただき、本当にありがとうございました。僕はミュージカル俳優になるという目標のために京都堀川音楽高等学校で声楽を学び、充実した日々を送っています。この3年間で多くの方々と巡り会うことができ、かけがえのない高校生活となりました。

高校のヨーロッパ研修旅行で訪れたウィーンの音楽に溢れた街並みは音楽を学ぶ者として、憧れる空間でした。

これからも良いご報告ができるよう精進して参ります。

この度はありがとうございました。

この奨学金は

対象者 来年4月から中学校3年生～高等学校3年生
奨学金 月額30,000円（返還不要、他の奨学金との併用可）
募集の詳細は2月下旬頃の公表の予定です。

日本プロ野球選手会
ドリームキャッチ野球教室

令和7年9月20日（土）宇治市黄檗体育館で日本プロ野球選手会ドリームキャッチ野球教室が開催されました。

宇治・城陽・久御山・綴喜・相楽の母子会から20名の子どもが参加しました。



講師の
亀山努さん
（元阪神タイガース）
砂田毅樹さん
（元中日ドラゴンズ）

楽しい指導をありがとうございました

いきいきふれあい事業

親子のふれあいと参加者相互の交流を目的とし、京都府及び京都新聞社会福祉事業団から後援・助成を受けて、楽しい企画を実施しています。

滋賀県満喫！盛りだくさんの休日をご過ごしました

宮津市母子寡婦福祉会 田中 慶子

今年は滋賀県長浜市にあるヤンマーミュージアムと黒壁スクエアで、娘と一緒に参加しました。

まず、創業者のチャレンジストーリーをシアターで鑑賞、体感して館内に入りました。館内には、実物大のトラクターなどが展示されており、間近で見ると迫力満点でした。体験型のコーナーは、身体を使った遊びで、学びが得られる工夫がされており、大人も一緒に楽しめて、自然と笑顔になりました。屋外には足湯があり、見晴らしも良く、ゆっくり過ごして癒されました。

黒壁スクエアでは、クラゲリウムを製作しました。ガラスの容器に選んだパーツ（浮き玉や色とりどりのストーン）を入れ、スタッフの方に専用オイルを流し込んでもらって完成です。オイルを入れた瞬間に浮き玉やラメ、形のあるキラキラが浮かび上がり、とても幻想的な世界が広がりました。自分だけの小さな水槽は、それぞれ個性溢れる作品に仕上がりました。

その後、黒壁スクエア周辺を散策し、お土産を買ったり、カレーパンなど食べ歩きを楽しみました。

忙しい日々の中でこのいきいきふれあい事業は、自分達では訪れることのない地域まで遠出ができ、行先も工夫して考えていただき、参加できることに感謝しています。今回は15の方が参加され、親子で楽しみ、心に残る休日となりました。来年もいきいきふれあい事業、素敵な企画を楽しみにしています。



動物とのふれあいと神戸空港で飛行機を楽しむ！！

相楽連合むつみ会 巴田 明美

7月13日に神戸どうぶつ王国と神戸空港に行ってきました。天候に恵まれましたが、曇り一日でした。貸切バスは満席で、グループ毎に座ることができなかったのですが、みんなで譲り合って座りました。車中では親も子も一人ずつマイクを持って自己紹介をし、交流を深めました。

神戸どうぶつ王国では、たくさんの動物や鳥たちを近くで見、触って、観察して、たくさんのことを学び、優しい気持ちになれる時間でした。

神戸空港では、広い滑走路と海を背景に、飛行機が離着陸する様子を間近で見ることができました。また、田中達也氏のミニチュア作品や大きなプロッコリーのオブジェを楽しみました。

参加者からは、「気分が悪くなり、快く席を代わってもらったり、優しく声を掛けてもらって嬉しかった。」「子どもが家族以外に優しく接する様子を見られて成長を感じた。」「高速道路を使った遠出は出来ないの、行きたかった思い出のどうぶつ王国はとても楽しかった。」など、たくさんの感謝の言葉をいただき、この事業の重要性を感じました。



社会福祉法人 京都府母子寡婦福祉連合会

発行責任者 常塚 朋子

〒604-0874

京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地

京都府立総合社会福祉会館内

TEL 075-223-1360 FAX 075-950-1503

<https://hitorioya.kyoto/>



やつと過酷な夏が終わりをづけ、過ごしやすくなりました。

皆さま、体調は崩されていませんか？

大阪万博のチケット・ドリームキャッチ・日帰りバーベキュー等のご招待もあり、つながりの輪が広がっていることを深く実感させていただきました。

子ども達が楽しい経験・体験を通して、ひと回りもふた回りも大きく成長されることを楽しみにしております。

(北野)